
	ゼミナール名	ゼミナール III (経営学)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	企業をよく研究し、より良い企業へ就職する
ゼミの到達目標	1) 就職内定を得る。 2) 卒業試験に合格する。
ゼミの概要	<p><就職活動> 就職先の候補の選択、就職先の候補に関する情報収集、就職試験の準備、就職試験への対応など就職活動は初めて経験することが多く含まれています。人生における大きなイベントである就職活動を成功させるために具体的な行動計画を作成し、着実に実行しましょう。</p> <p><卒業試験> 経営学の講義及びゼミナールで学んできたことを復習し、その要点を再確認し、自分の言葉で説明できるようにしましょう。</p>
授業時間外の学習	日本経済新聞などの経済紙を日頃から読む習慣をつけましょう。 面接試験への対策として、自分が就職を希望する業界に関する新聞記事に注意して、その業界において注目されている企業、製品、サービスなどについて情報を収集しましょう。
履修条件	原則としてゼミナール II で経営学ゼミナールを履修していること。 経営学基礎論および経営組織論の単位を取得している事が望ましい。
テキスト	なし
参考文献・資料	なし
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) *出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 13:00～15:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	企業をよく研究し、より良い就職先を見つけましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション	第17回	活動計画の見直し
第2回	就職候補企業の選定	第18回	活動計画の見直し
第3回	就職候補企業の選定	第19回	活動計画の見直し
第4回	就職候補企業の選定	第20回	調査訪問活動
第5回	調査訪問活動	第21回	調査訪問活動
第6回	調査訪問活動	第22回	調査訪問活動
第7回	調査訪問活動	第23回	調査訪問活動
第8回	調査訪問活動	第24回	調査訪問活動
第9回	調査訪問活動	第25回	調査訪問活動
第10回	調査訪問活動	第26回	調査訪問活動
第11回	調査訪問活動	第27回	調査訪問活動
第12回	調査訪問活動	第28回	就職準備活動
第13回	調査訪問活動	第29回	就職準備活動
第14回	調査訪問活動	第30回	就職準備活動
第15回	調査訪問活動	第31回	就職準備活動
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (行動科学)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学やその基盤としての行動科学の研究枠組みをふまえ、個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。 2. 研究の成果を適切にまとめ、発表することができる。
ゼミの概要	行動科学の研究手法を用い、各自が研究課題に取り組む。研究の成果は論文としてまとめる。まず問題関心を明らかにし、テーマを設定、適切な研究方法を選択する。それらは研究計画書にまとめ、報告会で発表する。さらに計画書にしたがい調査など研究活動を行った後、データを分析し得られた知見をまとめ、文章化していく。最終的には執筆した論文を報告会で発表する。
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい(1.5時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと(1.5時間程度)。 なお、夏季休暇中に調査活動を行いデータを採取する予定である。
履修条件	3年次までに「生涯学習」「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得しているもの。 なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しない。
テキスト	特に使用しない。
参考文献・資料	秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会, 2001. 小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会, 2012. その他研究過程で必要となる資料・文献については適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 30%、卒業論文 50%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 9:00~10:30・金曜日 13:00~14:30
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。 なお、事前連絡なしの欠席、遅刻は一切認めない。

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	データの整理
第2回	研究の成立する要件	第18回	データ入力
第3回	問題意識の明確化	第19回	データ分析
第4回	研究テーマの設定	第20回	研究ノートの作成① (構成)
第5回	研究テーマの報告会① (第1グループ)	第21回	研究ノートの作成② (各章の内容)
第6回	研究テーマの報告会② (第2グループ)	第22回	中間報告会① (第1グループ)
第7回	研究計画の策定① (仮説の設定)	第23回	中間報告会② (第2グループ)
第8回	研究計画の策定② (研究方法の選択)	第24回	中間報告会③ (第3グループ)
第9回	研究計画の策定③ (先行研究)	第25回	卒業論文の執筆① (文章の表現)
第10回	研究計画の策定④ (計画の適切性)	第26回	卒業論文の執筆② (図表の整理)
第11回	研究計画の報告会① (第1グループ)	第27回	卒業論文の執筆③ (専門用語)
第12回	研究計画の報告会② (第2グループ)	第28回	卒業論文の執筆④ (注・引用文献)
第13回	研究計画書の作成	第29回	卒業論文報告① (第1グループ)
第14回	研究のマナー	第30回	卒業論文報告② (第2グループ)
第15回	事前調査の実施	第31回	卒業論文報告③ (第3グループ)
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（観光学）		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3時限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	卒業後の進路に応用するための観光学
ゼミの到達目標	観光学を卒業後に様々な場面において応用する方法を理解し、「観光とは何か」を自分の言葉で説明できるようになる。
ゼミの概要	<p>観光学は、実は面白くて役に立つ学問です。これまで学んできた観光学の「総仕上げ」をすることがこのゼミナールでの1年間のミッションです。</p> <p>4年生にとって最初に重要なのは、希望する就職先から内定を取ること、そして卒業後の職業に役立つ実力をつけることです。そこで、ゼミナールⅢ(観光学)は、各自の興味・関心をもとに、メンバーで議論したうえで、卒業後の進路に応用するためのさまざまなツーリズムの研究を1年かけて行います。前にも述べたように、観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」を起こすことを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります、積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p>
授業時間外の学習	ゼミ課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業後を見据えて学ぶ意欲があること。 2. ゼミ行事(高杉祭、観光行事、球技大会、食事会など)に積極的に参加する意欲があること。 3. 無断欠席やネガティブな言動をしないこと。
テキスト	適宜資料を配布します。(特定のテキストは使用しません)
参考文献・資料	適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・提出物(30%)・ゼミ活動への参加状況・姿勢(40%)
オフィスアワー	毎週月曜日 1時限(9:00~10:30) 毎週金曜日 3時限(13:00~14:30)
学生へのメッセージ	<p>ゼミ担当の井上寛は、学生時代より四半世紀、一貫して観光をテーマに学び続けています。実学である「観光」はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光を学んだ!」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思っています。その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめゼミ旅行やコンパなどのゼミ行事も、積極的に参加し一緒に楽しむことのできる学生の履修を希望します。</p>

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第16回	後期オリエンテーション
第2回	未来の目標を語ろう	第17回	研究課題中間報告Ⅰ
第3回	観光学の復習1	第18回	研究課題中間報告Ⅱ
第4回	観光学の復習2	第19回	観光学の学術研究2-1
第5回	観光学の復習3	第20回	観光学の学術研究2-2
第6回	研究課題ディスカッション1-1	第21回	観光学の学術研究2-3
第7回	研究課題ディスカッション1-2	第22回	観光学の学術研究2-4
第8回	研究課題ディスカッション1-3	第27回	総合学習1
第9回	研究課題ディスカッション1-4	第24回	研究課題ディスカッション2-1
第10回	総合学習1	第25回	研究課題ディスカッション2-2
第11回	観光学の学術研究1-1	第26回	研究課題ディスカッション2-3
第12回	観光学の学術研究1-2	第27回	研究課題ディスカッション2-4
第13回	観光学の学術研究1-3	第28回	研究発表1
第14回	観光学の学術研究1-4	第29回	研究発表2
第15回	前期の振り返り	第30回	後期の振り返り
		第31回	後期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ(刑事法)		
	ゼミ担当者名	岡崎 頌平		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	刑事法の重要問題を研究する
ゼミの到達目標	本ゼミナールでは、ゼミナールⅡで完成させたゼミレポートを発展させて、ゼミ論文としてまとめあげてもらいます(成績評価の方法を確認すること)。ただ、3年生配当の刑事法科目を履修して、刑事政策や少年司法に関心をもった学生が出てくることは十分に想定されますので、必ずしもゼミレポートで選択したテーマでのゼミ論文完成に拘束されることはないと思います。しかしながら、その場合には、これまで学んできたことをしっかりと活かして、完成までのロードマップを早めに作りあげることが重要になります。
ゼミの概要	他者の批判に耐えうる質・量を備えたゼミ論文の完成
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ論文完成に向けた準備をすること。(240分) ・計画的に執筆を進めること。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活入門Ⅰ・Ⅱ、法律事例研究Ⅰ・Ⅱ、法律学研究、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑事政策の単位を修得済みであること(加えて、外国法制研究の単位も修得してあるとなおよい)。 ・体験期間中に出席し、その際に履修条件の確認を含めた面談を受けること。 <p>なお、上記した条件は必要条件であるから、これらの条件を充たさない者は履修を認めない。</p>
テキスト	受講者が使用している基本書など
参考文献・資料	中山研一ほか『レヴィジオン刑法1・2・3』成文堂(1997・2002・2009);山口厚『問題探究 刑法総論・刑法各論』有斐閣(1998・1999);山口厚ほか『理論刑法学の最前線Ⅰ・Ⅱ』岩波書店(2001・2006);西田典之ほか『注釈刑法 第1・2・4巻』有斐閣(2010・2016・2021)
成績評価の方法	ゼミ論文50%、授業への参加状況(報告・質疑応答など)30%、定期試験20% ※ゼミ論文については、1枚あたり40字×30行の用紙設定(A4サイズ)で最低10枚以上のものの提出を求める予定です。また、公開の場での報告会を予定しています。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日1・2限(前期)、月曜日1・3限(後期)
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	この授業は、単一方向のものではなく、双方向のものになりますので、積極的な参加(発言)を期待しています。また、これも当然のことを述べるようになりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断欠席等は厳禁です(なお、無断欠席等があった場合、その事情によっては、それ以降の履修を認めません)。

授業計画			
第1回	イントロダクション	第17回	第3回報告①
第2回	第1回報告①	第18回	第3回報告②
第3回	第1回報告②	第19回	第3回報告③
第4回	第1回報告③	第20回	第3回報告④
第5回	第1回報告④	第21回	第3回報告⑤
第6回	第1回報告⑤	第22回	第3回報告⑥
第7回	第1回報告⑥	第23回	まとめ③
第8回	まとめ①	第24回	第4回報告①
第9回	第2回報告①	第25回	第4回報告②
第10回	第2回報告②	第26回	第4回報告③
第11回	第2回報告③	第27回	第4回報告④
第12回	第2回報告④	第28回	第4回報告⑤
第13回	第2回報告⑤	第29回	第4回報告⑥
第14回	第2回報告⑥	第30回	まとめ④
第15回	まとめ②	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (社会政策)		
	ゼミ担当者名	木村 澄		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人間の一生をどのように保障するのか」
ゼミの到達目標	日本の「社会保険制度」に関する各種制度を概略的に理解して、みなさんの職業生活と人生において活かせるようにすることを目標とします。
ゼミの概要	日本の社会保障制度について、テーマ別に概観して行きます。毎回の発表はありません。
授業時間外の学習	配付するレジュメのコラムを見れば簡単な予習ができます。そうすることで、次のゼミの内容の理解が進みます。また、簡単な復習をすることで、ゼミ内容の理解を深めることができます。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間にレジュメや資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	<p>【出席状況(50%)、中間試験(25%) 期末試験(25%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、小テストを行うことがあります。 ・レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板(ポータルサイト含む)で指示をします。 <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	毎週月曜日 13:00~14:00・火曜日 13:00~14:00 ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀(90~100点)、優(80~89点)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(0~59点)
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立つゼミです。 「わかる・できる」ようになるを大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	後期オリエンテーション
第2回	社会政策の理論 (1)	第18回	医療保険制度 (1)
第3回	社会政策の理論 (2)	第19回	医療保険制度 (2)
第4回	社会政策の理論 (3)	第20回	医療保険制度 (3)
第5回	社会政策の理論 (4)	第21回	年金保険制度 (1)
第6回	社会政策の理論 (5)	第22回	年金保険制度 (2)
第7回	社会政策の理論 (6)	第23回	労働者災害補償保険制度 (1)
第8回	社会保障制度の生成	第24回	労働者災害補償保険制度 (2)
第9回	社会保障の役割と方法	第25回	労働者災害補償保険制度 (3)
第10回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (1)	第26回	雇用保険制度 (1)
第11回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (2)	第27回	雇用保険制度 (2)
第12回	日本の社会保障の歴史的発展 (1)	第28回	介護保険制度 (1)
第13回	日本の社会保障の歴史的発展 (2)	第29回	介護保険制度 (2)
第14回	生活保護法 (1)	第30回	介護保険制度 (3)
第15回	生活保護法 (2)	第31回	まとめ
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（簿記・会計）		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日商簿記3級・日商簿記2級資格を取得する・簿記の歴史を学ぶ。IFRS会計を学ぶ。
ゼミの到達目標	①日商簿記2・3級資格を取得できていない学生はこれまでの継続 ②各学生の目標により勉強する
ゼミの概要	簿記・会計(国際会計を含む)の歴史を共に学ぶ。
授業時間外の学習	ゼミとは別に週1回個別に私の研究室で問題演習をやる。
履修条件	4年生になっても資格取得に情熱を持っている学生
テキスト	田中靖浩著『会計の世界史』日本経済新聞社 2,420円
参考文献・資料	
成績評価の方法	授業態度・検定試験の合否・自分の目標を持っているかどうかを見て評価する。
オフィスアワー	水曜日4時間目・金曜日4時間目
成績評価基準	授業態度40%・検定試験の合否30%・テスト、レポート30%
学生へのメッセージ	近年、楽な方に楽な方に流れる学生が多い。積極的に目標に向かって努力する人を希望します。


授業計画			
第1回	面接	第17回	19世紀アメリカ—管理会計とファイナンス① 南北戦争と大陸横断鉄道
第2回	15世紀イタリア① 銀行革命 地中海でのリズカーレとそれを助けるバンコ	第18回	19世紀アメリカ—管理会計とファイナンス② 大量生産と原価計算
第3回	15世紀イタリア② 銀行革命 イタリア黄金期を支えたバンコと簿記	第19回	19世紀アメリカ—管理会計とファイナンス③ 巨大化する企業
第4回	15世紀イタリア① 簿記革命 レオナルドと簿記の父との運命的な出会い	第20回	19世紀アメリカ—管理会計とファイナンス④ 南部から北部へ コカ・コーラとジャズ
第5回	15世紀イタリア② 簿記革命 公証人を頼らず自ら記録を始めた商人	第21回	20世紀アメリカ—管理革命① シカゴから始まったジャズと管理会計の歴史
第6回	17世紀オランダ① 会社革命 神から人間中心の世界へ	第22回	20世紀アメリカ—管理革命② セグメント情報
第7回	17世紀オランダ② 会社革命 オランダで誕生した株式会社	第23回	20世紀アメリカ—管理革命③ デュボンの管理会計革命
第8回	財務会計の歴史① 19世紀イギリス利益革命 蒸気機関車	第24回	20世紀アメリカ—管理革命④ クロスオーバーが始まった音楽と会計
第9回	財務会計の歴史② 鉄道狂時代	第25回	21世紀アメリカ—価値革命① マイケルジャクソンに学ぶ価値
第10回	財務会計の歴史③ 19世紀の鉄道会社から始まった利益	第26回	21世紀アメリカ—価値革命② 企業価値とは
第11回	20世紀アメリカ 投資家革命① 新大陸への移民と投資マネー	第27回	21世紀アメリカ—価値革命③ 投資銀行とファンドを支えたファイナンス
第12回	20世紀アメリカ 投資家革命② 崩壊前夜のニューヨーク	第28回	21世紀アメリカ—価値革命④ うっろいやすい価値を求めさまよう私たち
第13回	20世紀アメリカ 投資家革命③ SEC 初代長官は大悪党だった	第29回	I F R S財務会計 I F R S会計とは？ I F R S会計の見方と考え方
第14回	20世紀アメリカ 投資家革命④ パブリックとプライベート	第30回	I F R S財務諸表の考え方 財政状態計算書と包括利益計算書の関係
第15回	21世紀国際革命 自動車の生産・国際会計基準	第31回	財政状態計算書の構成要素と作成 包括利益計算書の構成要素と作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (安全保障論)		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障の重要課題を研究する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。 2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。 3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を説明できる。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を説明できる。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。 8 国際人道法について概要を理解している。 9 安全保障政策について自己の意見を述べることができる。
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>当初はゼミナールⅠ及びⅡのふりかえりも入れつつ、安全保障体制についてまとめを行います。後半は、各自が興味を持ったテーマについてゼミ論文をまとめます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。 ・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。 <p>(予習 2時間程度、復習 2時間程度)</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1 次の①～④の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> ① 学生生活入門Ⅰ・Ⅱ（または総合科目Ⅰ・Ⅱ）の単位を修得済みであること。法律学科の学生はこれらに加えて、法律事例研究Ⅰ・Ⅱの単位も修得済みであること。 ② 国際関係論、安全政策論、統治機構、行政学Ⅰ・Ⅱ、公共政策論、地域政策論、国際研究入門、世界政治学Ⅰ、世界政治学Ⅱ、国際法のうちいずれかの単位を修得済みであること。 ③ 体験期間（1回目又は2回目）に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは出席時に配布する。）。) ④ 履修登録にあたっては、体験期間中に担当教員と面接の上、履修許可を得ること。 2 安全保障論ゼミナールⅡの単位を修得済みであること、国際関係論特別講義を同時履修であることが望ましい。 3 ゼミナール内での討議に参加すること。
テキスト	授業中に指示する。

参考文献・資料	防衛白書（令和元年版）、外交青書（令和元年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝日新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウエッジ）
成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、ゼミ論文50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日14:40～16:10・水曜日14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。 ゼミ論文のテーマを定め、研究及び発表に入ることができるようにするため、毎回安全保障に関するトピックについて討議に並行して、適時の論文指導を行います。後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。


授業計画			
第1回	ガイダンス 安全保障のまとめ（ゼミナールⅠ・Ⅱのふりかえり）	第17回	論文作成準備 テーマの確認・研究の方向性
第2回	今日の国際関係①（概観）	第18回	文献検索・中間指導（グループ1）
第3回	今日の国際関係②（地域ごと）	第19回	文献検索・中間指導（グループ2）
第4回	防衛政策①（ゼミナールⅠ・Ⅱのふりかえり）	第20回	文献検索・中間指導（グループ3）
第5回	防衛政策②（テーマの抽出・討論①）	第21回	中間報告（グループ1）
第6回	防衛政策③（討論②）	第22回	中間報告（グループ2）
第7回	国民保護政策①（概観）	第23回	中間報告（グループ3）
第8回	国民保護政策②（討論）	第24回	個別指導①
第9回	国際人道法①（ジュネーブ条約概観）	第25回	個別指導②
第10回	国際人道法②（文民条約）	第26回	卒業論文ゼミナール発表（グループ1）
第11回	国際人道法③（捕虜条約）	第27回	卒業論文ゼミナール発表（グループ2）
第12回	国際連合の役割	第28回	卒業論文ゼミナール発表（グループ3）
第13回	紛争の平和的解決手段（討議）	第29回	特別講義①（ゲストスピーカー）
第14回	平和安全法制①（概観）	第30回	特別講義②（ゲストスピーカー）
第15回	平和安全法制②（我が国の平和協力の在り方）	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（民法）		
	ゼミ担当者名	高橋佑輔		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	木曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	民法の知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。
ゼミの到達目標	民法の基礎知識を修得し、問題を検討し解決するための方策を考えることができる。公務員試験等で問われる民法の知識を確実に身に付ける。
ゼミの概要	<p>判例等の事例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行い、また、関連する法分野の知識の確認を行う。報告担当者以外の参加者にも発言を求め（指名する）、担当教員との対話方式でゼミナールを進行する。</p> <p>ゼミナールⅢ（4年次）は、3年次までに修得した民法知識を確認しつつ、民法知識を前提とした問題解決策等を各履修者が自ら考える力を養うことを目標とする。</p> <p>本ゼミナールでは、民法知識の確認のため毎回のゼミナール冒頭にミニテストを実施する他、定期的に知識確認テストを実施します。</p> <p>履修人数により異なりますが、履修者全員が少なくとも年2回以上（通常4回程度）ゼミナール内で発表を担当することになります。また、原則として発表準備はゼミナール時間外に行ってもらいます（発表内容等に関する教員への相談は歓迎します）。</p>
授業時間外の学習	ゼミナールで扱った範囲について、問題演習等を通じて復習すること（1.5時間）。報告担当者は、報告において引用する資料等も確認して報告準備を行うこと。
履修条件	民法総則、物権法、債権総論、債権各論、親族・相続の各科目について履修した者と同程度の民法知識があること。
テキスト	履修者と相談して指定する。
参考文献・資料	適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での報告（75%）と試験結果（25%）に出席状況、学習到達度確認テスト結果等を加味して評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日13:00～14:30・木曜日14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。参加希望者は毎回六法、民法のテキストを手元に準備することが必須です。 毎回の出席は当然ですので、理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。


原則として就職活動を理由とする欠席は認めません。複数回開催される企業説明会等は本ゼミナールと重複しない開催日に参加してください。個別面接等でやむを得ず欠席する場合には、事前に担当教員に相談してください。

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	学習状況の確認・事例検討
第2回	事例検討	第18回	事例検討
第3回	事例検討	第19回	事例検討
第4回	発表準備・調査（図書館での判例DB検索など）	第20回	学習到達度確認テスト⑤ 発表準備・調査・面談
第5回	学習到達度確認テスト① 発表準備・調査・面談（発表準備状況確認）	第21回	発表準備・調査・面談
第6回	事例検討	第22回	事例検討
第7回	発表・事例検討	第23回	発表・事例検討
第8回	発表・事例検討	第24回	学習到達度確認テスト⑥ 発表・事例検討
第9回	学習到達度確認テスト② 発表・事例検討	第25回	発表・事例検討
第10回	発表・事例検討	第26回	発表・事例検討
第11回	発表・事例検討	第27回	発表・事例検討
第12回	発表・事例検討	第28回	学習到達度確認テスト⑦ 発表・事例検討
第13回	学習到達度確認テスト③ 発表・事例検討	第29回	発表・事例検討
第14回	事例検討	第30回	事例検討
第15回	前期のまとめ	第31回	後期のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (心理学)		
	ゼミ担当者名	瀧澤 純 (たきざわ じゅん)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	心理学に関する知見を生み出す。
ゼミの到達目標	4年生のゼミでは心に関する研究案を考え、研究を実施し、研究内容を発信できるようになることを目標とする。社会・人間・動物について温かく思いやる視点と、冷静に分析する視点を両立させてほしい。
ゼミの概要	<p>心理学の視点や方法を用いて検証し、発信するゼミである。ゼミでは「簡単に調べただけでは答えが出せない問題」に取り組む。ゼミでの活動により、所属する学科の学びにも、試験勉強にも、就職活動にも、公務員試験にも、その後の人生にも活かすことを目指す。</p> <p>卒業研究のテーマ決め、計画・実施、データの分析、5000字以上の卒業論文の提出(11月末)、卒業研究発表会での発表(12月下旬)、学生論文コンクールへの提出(1月中旬)を行う。</p>
授業時間外の学習	<p>ゼミの時間外で、グループでの話し合い、資料の検索、実験の考案・調査用紙の作成、実験や調査への協力の呼び掛け、データ入力、データ分析、レポートや論文作成、発表用スライドの作成などに取り組む必要がある(週2.0時間程度)。</p> <p>さらに、毎週のゼミ前には指定された資料を読み(週1.0時間程度)、ゼミ後には復習を行うことを求める(週1.0時間程度)。</p>
履修条件	<p>前年度に、瀧澤が担当したゼミの単位を取得していることが必要である。そうでない場合は、以下の①と②の両方を満たさなければ、このゼミを履修できない。</p> <p>①ゼミを履修する時点で「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、統計学、人間行動学、犯罪心理学、社会調査の仕方、スポーツ心理学、社会心理学の8科目」から4科目以上の単位が取得済みであること</p> <p>②ゼミ第3回開始までに教員との面談に合格し、受講の許可を得ること</p>
テキスト	<p>柏木吉基『「それ、根拠あるの?」と言わせないデータ・統計分析ができる本』(日本実業出版社, 2013年)</p> <p>このほか、学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探す必要がある。</p>
参考文献・資料	松井豊『心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために』(河出書房新社, 2010年)
成績評価の方法	<p>行事への参加と取り組み姿勢20%、提出物と発表60%、定期試験20%の割合で評価する。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	月曜日の2時限(10:40から12:10)、金曜日の2時限(10:40から12:10)とする。
成績評価基準	100~90点を秀、89~80点を優、79~70点を良、69~60点を可、59点以下を不可とする。
学生へのメッセージ	積極的な参加が求められるゼミです。学年合同の懇親会、球技大会、大学祭、ゼミ旅行、各学年の発表会など、学年やゼミを越えて人と関わる中で、人を想うことができる人になってください。心理学による検証を行い、検証結果を発信する中で、人への思慮深さを身につけてください。

授業計画			
第1回	ガイダンス：教員の研究紹介①	第17回	卒業論文の作成③：文章の書き方
第2回	心理学の概要：よい研究とは、教員の研究紹介②	第18回	卒業論文の作成④：詳細に、簡潔に
第3回	テーマ決め：資料検索、連絡グループ作成	第19回	卒業論文の作成⑤：図表の作成
第4回	研究案の具体化①：課題設定、仮説と結果予想	第20回	中間報告会③：前半組
第5回	研究案の具体化②：実験手続きの具体化	第21回	中間報告会④：後半組
第6回	研究案の具体化③：質問紙の作成	第22回	卒業論文の修正①：研究の目的
第7回	研究案の改善①：仮説との関連	第23回	卒業論文の修正②：引用の方法
第8回	研究案の改善②：測定方法の利点と欠点、工夫	第24回	卒業論文の修正③：資料の添付
第9回	研究案の改善③：リハーサル的重要性	第25回	卒業論文の最終提出
第10回	研究の実施①：研究の倫理	第26回	卒業論文の修正④：校正
第11回	研究の実施②：データ入力、統計的検定	第27回	発表会の準備①：発表のルール
第12回	中間報告会①：前半組	第28回	発表会の準備②：発表資料
第13回	中間報告会②：後半組	第29回	発表会の準備③：リハーサル前半組
第14回	卒業論文の作成①：構成と見出し	第30回	発表会の準備④：リハーサル後半組
第15回	卒業論文の作成②：仮提出に向けて	第31回	卒業研究発表会での発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (情報システム管理論)		
	ゼミ担当者名	瀧森 威		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	最新の情報・IT技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。
ゼミの到達目標	社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。情報リテラシー能力を身に付ける。
ゼミの概要	<p>このゼミの単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。 2. 調査・研究・発表を通して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、報告書作成能力が身に付く。 3. 情報リテラシー能力、情報処理技術の基本が身に付く。 <p>※最新言語 Python についての実習も検討中で、ゼミの中で説明します。</p>
授業時間外の学習	<p>情報やITの技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。</p> <p>多くのソフトウェアを使いこなす。</p>
履修条件	コンピュータ入門やコンピュータ利用技術Ⅰ、情報システム管理論ゼミナールⅠ・Ⅱを修得している学生が望ましい。
テキスト	情報やIT関連に関するプリント、資格取得のためのプリント
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。ITパスポート関連、日商PC検定関連、MS検定関連資料。
成績評価の方法	<p>講義中に実施する実践的課題 20% (知識問題・実技問題・レポート)、個人調査研究 40%、試験 40%により判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・課題は必ず提出することが前提で、授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	<p>毎週 金曜日 10:40～12:10</p> <p>これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	<p>平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度(2015)以前入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>情報(プログラム開発等)やIT関連の仕事に就きたい人にはお勧めです。</p> <p>大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考えましょう。また、情報やIT関連資格取得を目標にしましょう。</p>

授業計画			
第1回	ゼミナールの概論	第17回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題1と解説 個人各テーマ改善・改良
第2回	最新情報・IT技術、秋田県諸問題のための調査 研究概要（個人テーマ決め）	第18回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題2と解説 個人各テーマ改善・改良
第3回	個人テーマ概要作成、テーマ確定	第19回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題3と解説 個人各テーマ本番発表準備
第4回	情報処理技術の応用実践的知識の習得① （情報セキュリティ管理と技術、資産とリスク） 個人各テーマ調査・研究	第20回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題4と解説 個人各テーマ本番発表準備
第5回	情報処理技術の応用実践的知識の習得② （情報セキュリティに関する知識問題確認） 個人各テーマ調査・研究	第21回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題5と解説 個人各テーマ本番発表準備
第6回	情報処理技術の応用実践的知識の習得③ （システム開発概要、ソフトウェア開発手法） 個人各テーマ調査・研究	第22回	ゼミ内各研究発表会
第7回	情報処理技術の応用実践的知識の習得④ （ITに関わるマネジメント） 個人各テーマ調査・研究	第23回	ゼミ内各研究発表会
第8回	情報処理技術の応用実践的知識の習得⑤ （ITに関わるマネジメントの知識問題確認） 個人各テーマ調査・研究	第24回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第9回	情報処理技術の応用実践的知識の習得⑥ （ITに関わるマネジメントの知識問題確認） 個人各テーマ中間発表準備	第25回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第10回	ITパスポート関連知識問題確認 個人各テーマ中間発表準備	第26回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第11回	日商PC検定実技試験（文書作成）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第27回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第12回	日商PC検定実技試験（データ活用）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第28回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第13回	日商PC検定実技試験（サイト作成）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第29回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第14回	ゼミ内各研究中間発表会	第30回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第15回	ゼミ内各研究中間発表会	第31回	1年間の総括
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（経済分析・データサイエンス）		
	ゼミ担当者名	田村 英朗		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>1. 研究のための基礎的能力を養成すると共に、各自の興味・テーマに応じて「経済理論」、「計量経済学」または「データサイエンス」の手法を学び、議論し、研究することにより、大学生活の仲間と共に成長する。</p> <p>2. 大学における研究活動の集大成としての卒業論文を作成・提出する。</p>
ゼミの到達目標	<p>1. 自分で関心のある研究テーマを見つけ、大学の授業およびゼミナールで得た知識および分析手法と収集したデータを用いて有意義な知見を引き出せるようになること。</p> <p>2. 社会もしくは企業の課題解決に自ら貢献したいというマインドを形成すること。</p>
ゼミの概要	<p>本ゼミは3年次までに獲得した研究による知的財産を卒業論文にまとめることを目的とする。2回のガイダンスの後、卒業論文テーマと改善ポイントの発表（Ⅱからのメンバー）、継続中の卒業論文テーマの発表（Ⅲからのメンバー）を行い、第11回までの輪読（分析手法習得）と並行して、卒業論文計画書に基づく活動（Ⅱからのメンバー）および参考文献とデータの収集（Ⅲからのメンバー）を進め、ゼミナール内での発表時のコメント等を踏まえながら論文の作成と修正を行い、第27回以降、順次、卒業論文の発表と質疑応答を行う。</p>
授業時間外の学習	<p>第11回までは紹介された「経済理論」、「計量経済学」または「データサイエンス」の手法について自ら学習して理解を深めること。第3回以降は3年次のゼミナール大会のコメントを踏まえながら、卒業論文の完成のためにグループメンバー間で取り決めた役割分担（資料収集、データ収集、データ入力、データ分析、論文およびパワーポイント作成等）の担当部分について責任を持ち、期限を守って作業を進めること。</p>
履修条件	<p>1. 令和3年度に教員が担当した授業の単位を全て取得していること。</p> <p>2. 経済データ解析論を履修済もしくは履修予定であること。なお、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ゲーム理論を履修済、履修中もしくは履修予定であるのが望ましい。</p> <p>3. 履修登録に先立ち教員と面談し、履修の許可を得ること。</p> <p>4. ゼミナールメンバー間の意見交換、研究グループの役割分担等に積極的に参加すること。</p>
テキスト	各グループの研究テーマに応じて適宜指示する。
参考文献・資料	<p>1. 田村英朗(2022)「コロナ感染率制御のミクロ経済学的分析ー飲食業を中心としてー」『経済論集』第20号 ノースアジア大学</p> <p>2. 各グループが主体的に収集した研究テーマに関する参考文献・資料</p>
成績評価の方法	<p>ゼミおよび関連行事への参加と取り組み姿勢 40%、研究成果の発表と貢献度 30%、定期試験 30%の割合で評価する。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができない。</p>
オフィスアワー	<p>担当科目がある曜日の第4時限の時間帯</p> <p>※これ以外の時間帯は必ず事前に予約のこと。（毎週金曜日を除く）</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>ゼミ研究報告の基本となる重回帰分析の基礎を学び、エクセルを用いて独自の分析ができるようになります。また、分散分析、多変量解析、ゲーム理論など分析目的に合わせた手法も学びます。これらのスキルは企業・官公庁でも役に立ち、将来の労働環境の改善につながることができます。興味を持つ研究テーマを定め、社会の問題解決に繋がる研究活動を目指して頑張りましょう。</p>


授業計画			
第1回	ガイダンス① ゼミナール活動方針についての説明と話し合い。	第17回	研究③ 卒業論文の進捗状況確認・フォロー(1)
第2回	ガイダンス② 研究とは何かの再確認	第18回	研究④ 卒業論文の進捗状況確認・フォロー(2)
第3回	研究① 卒業論文テーマと改善ポイントの発表(Ⅱからのメンバー)、継続中の卒業論文テーマの発表(Ⅲからのメンバー)	第19回	研究⑤ 卒業論文の進捗状況確認・フォロー(3)
第4回	輪読① 経済分析事例研究(田村(2022))	第20回	研究⑥ 卒業論文の進捗状況確認・フォロー(4)
第5回	輪読② 重回帰分析の基礎	第21回	研究⑦ 卒業論文の進捗状況確認・フォロー(5)
第6回	輪読③ 重回帰分析の応用(PC持参、エクセル操作)	第22回	輪読⑫ 参考文献(4)
第7回	輪読④ 分散分析の基礎	第23回	輪読⑬ 参考文献(5)
第8回	輪読⑤ 分散分析の応用(PC持参、エクセル操作)	第24回	輪読⑭ 参考文献(6)
第9回	輪読⑥ 多変量解析の基礎	第25回	卒業試験対策(第2回)(1)
第10回	輪読⑦ 多変量解析の応用(PC持参、エクセル操作)	第26回	卒業試験対策(第2回)(2)
第11回	輪読⑧ ゲーム理論のスポーツへの応用(PC持参、エクセル操作)	第27回	研究⑧ 卒業論文発表、質疑応答(1)
第12回	研究② 卒業論文の進捗状況の発表	第28回	研究⑨ 卒業論文発表、質疑応答(2)
第13回	輪読⑨ 参考文献(1)	第29回	研究⑩ 卒業論文発表、質疑応答(3)
第14回	輪読⑩ 参考文献(2)	第30回	研究⑪ 卒業論文発表、質疑応答(4)
第15回	輪読⑪ 参考文献(3)	第31回	研究⑫ 卒業論文発表、質疑応答(5)
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール III (行政学・政治学 (地方自治含む))		
	ゼミ担当者名	寺迫 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 4限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>そもそも行政や政治とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」(片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部)であることを、本ゼミナールを通じて認識し、行政(学)・政治(学)についての理解を深めること。ゼミナール I, II, III を通じて、段階的にゼミ論文を執筆、完成させましょう。</p>
ゼミの到達目標	<p>①行政(学)、政治(学)、地方自治(論)についての一般的知識を習得し、 ②ゼミ参加者各自が、各々のテーマを探求し、 ③他国の事例あるいは同国の他のテーマとの比較の視点を獲得することにより、各自がゼミ論文を完成させること。 以上に加えて4年生は、卒業試験対策に取り組み、合格すること。</p>
ゼミの概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゼミナール I および II を経てゼミ論文作成も佳境にさしかかっているはずですが。就職活動や資格試験でたいへんな時期でもありますが、それでもノースアジア大学で勉強した証を形にしましょう。 ▶ ノースアジア大学では卒業試験に合格しなければ卒業できません。本ゼミは卒業試験科目に合致しませんが、卒業試験対策に取り組み、合格を勝ち取りましょう。 ▶ 行政学および政治学の基礎知識を効率よく習得するため、いわゆる公務員試験対策教材を活用する場合があります。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 文部科学省の大学設置基準第 21 条に基づき、事前学習 (1.5 時間) および事後学習 (1.5 時間) とします。 ▶ 世間、社会、世界に関心をもって過ごすことで、事前・事後学習時間に充当すること。
履修条件	<p>※ゼミナール II 寺迫ゼミ所属 (= 繰り上がり) ではない場合は、以下の条件をみたとすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 卒業試験に合格済みであること。 ▶ 「行政学 I・II」、「公共政策論」、「都市政策論」、「判断推理 I・II」を履修済みであること。 ▶ 国家試験等センターに所属し、公務員・資格試験対策に取り組んでいること。 ▶ 第 1 回あるいは第 2 回 (お試し) ゼミのいずれかにも出席すること。出席できない場合には、必ず、履修前に国家試験等センターへ個人面談に来てください。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゼミ参加メンバーと調整して決定
参考文献・資料	<p>『行政学』西岡晋・廣川嘉裕編 (文眞堂、2021) 『テキストブック地方自治の論点』宇野二郎・長野基・山崎幹根 (ミネルヴァ書房、2022) 『政府間関係の多国間比較』秋月謙吾・城戸英樹編 (慈学社、2021) 『比較行政学入門』ザビーネ・クールマン、ヘルムート・ヴォルマン (成文堂、2021) 『Verwaltung und Verwaltungswissenschaft in Deutschland』Jörg Bogumil und Werner Jann (Springer VS, 2020) 『行政学 [新版]』真淵勝 (有斐閣、2020) 『行政学の基礎』風間規男編著、岡本三彦、中沼丈晃、上崎哉 (一藝社、2019) 『日本の地方政府』曾我謙悟 (中公新書、2019) 『行政学講義』金井利之 (ちくま新書、2018)</p>

	『行政学』原田久（法律文化社、2016） 『行政学〔第2版〕』外山公美編（弘文堂、2016） 『はじめての行政学』伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔（有斐閣ストゥディア、2016） 『行政学』曾我謙悟（有斐閣アルマ、2013） 『雇用連帯社会』井手英策編（岩波書店、2011） 『コレク行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2007） 『都市の再生を考える〈第1巻〉都市とは何か』植田和弘・西村幸夫など編（岩波書店、2005） 『行政学〔新版〕』西尾勝（有斐閣、2001） 『国民と行政』片岡寛光（早稲田大学出版部、1990）
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゼミでの積極的参加・貢献の度合い（65%） ▶ レポートあるいは試験（35%） ※ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4限および木曜日 1限
成績評価基準	秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 人は「一人じゃ生きられない」からこそお互いに協働し（「都市政策論」参照）、 ▶ 公共政策の射程は「当たり前」でも「他人事」でもなく（「公共政策論」参照）、 ▶ 「誰も見捨てないこと」こそ本来の行政・政治である（「行政学I・II」参照）、 という認識を涵養し共有できる場にしましょう。


授業計画			
第1回	オリエンテーション	第17回	インターミッション
第2回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション①	第18回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況⑦
第3回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション②	第19回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況⑧
第4回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション③	第20回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議①
第5回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション④	第21回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議②
第6回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況①	第22回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議③
第7回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況②	第23回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議④
第8回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況③	第24回	各ゼミ論文の完成プレゼンテーション①
第9回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況④	第25回	各ゼミ論文の完成プレゼンテーション②
第10回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑤	第26回	各ゼミ論文の完成プレゼンテーション③
第11回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑥	第27回	各ゼミ論文の完成プレゼンテーション④
第12回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑦	第28回	ゼミナール III のまとめと卒業後への展望①
第13回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑧	第29回	ゼミナール III のまとめと卒業後への展望②
第14回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況⑥	第30回	ゼミナール III のまとめと卒業後への展望③
第15回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況⑦	第31回	ゼミナール III のまとめと卒業後への展望④
第16回	定期試験あるいはゼミ論文中間報告	第32回	定期試験あるいはゼミ論文講評

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（人間科学）		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児（にしまき じょうじ）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間の「いのち」についてーいのちと経済との関係ー
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、ならびに他人の「いのち」を見つめる視点を獲得できる。 ・いのちと経済の関係から生ずる諸問題を説明できる。 ・自分の生き方を見つめる視点を養うことができる。
ゼミの概要	<p>生きることの根源とされる「いのち」とは、いったい何なのだろうか。また、「いのちに値段はつけられない」などと言われてたりもするが、実際の所、さまざまな場面で「いのち」にその価値・値段がつけられ、いのちが市場経済に巻き込まれている現状がある。</p> <p>このゼミナールⅢでは、「生」と「死」にまつわるさまざまな問題を、「自己決定の概念」（自分に関連することは自身の意志で決定する）を柱にして考え、併せて、いのちと経済との関連も考えていく。</p> <p>つねに私たちの身近にある生と死についての諸問題を、ゼミ生各自が「自分の問題」として考えられるよう、ドキュメンタリー映像やさまざまな資料をふんだんに交えながら授業を進めていく。</p> <p>また、いのちにまつわる問題を一緒に考え、ディスカッションを積極的に行っていく。</p>
授業時間外の学習	<p>予習：（1.5時間程度） 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。また、卒業論文完成に向けては、かなりの準備時間が必要となる。</p> <p>復習：（1.5時間程度） 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習するにはそれも参考にすること。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間のいのち」に関する自身の問題意識を書くことが第一条件である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに参加希望する旨を直接本教員に表明し、面談を受けることが、第二条件である。 ・本ゼミナールでは、卒業論文を執筆することがゼミナールに参加する絶対の条件となっている。 ・卒業論文にまつわる発表が数回義務づけられ、また、ディスカッションの際には積極的に議論に参加することが求められる。
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。 また、パワーポイント、映像資料や文字資料も使用する。
参考文献・資料	授業内で適宜指示する。
成績評価の方法	<p>3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出してもらうリアクションペーパーによる理解度（20%）、発表時の内容（30%）と、定期試験（50%）を総合して、最終的な評価を下す。</p> <p>また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。</p>

成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考えるさまざまなヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。

授業計画			
第1回	ガイダンスα： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第17回	ガイダンス： 前期の復習と後期の授業展開
第2回	ガイダンスβ： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第18回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会①
第3回	オリエンテーション： 人間のいのちと金銭をめぐる問題	第19回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会②
第4回	人間のいのちをめぐる問題の諸相	第20回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会③
第5回	重度障害新生児をめぐる：パーソン論の問題	第21回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会④
第6回	卒業論文完成計画Ⅰ：(レポート執筆の準備) 文献の探し方、文献注記の書き方など	第22回	自己決定を超える問題
第7回	医療従事者と患者の関係： インフォームド・コンセントとは	第23回	脳死からの臓器移植
第8回	生き方の自己決定とは	第24回	資源としてのいのち
第9回	生き方の自己決定と尊厳ある死	第25回	脳死と人の死
第10回	世界に見る死の自己決定：安楽死について	第26回	自分の生き方とは
第11回	死を決定する権利をめぐる	第27回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会①
第12回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①	第28回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会②
第13回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②	第29回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会③
第14回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会③	第30回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会④
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミナールの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（表現文化）		
	ゼミ担当者名	橋元 志保		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日本やイギリスの文化・文学を学び、大学生にふさわしい教養を身につける。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 日本やイギリスの文学に触れ、内容を味わい、文化的背景も含めて理解することができる。 3. 文化や文学をテーマにした論理的な文章を書き、発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリスの文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化や文学をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んでください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（1～2時間程度）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します（1～2時間程度）。
履修条件	① 「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」「世界の中の日本文学」のいずれかの科目を履修して単位を修得しているか、今年度、上記科目のうち一つ以上を履修する意欲があること。 ② 前期の履修登録期間中（ゼミナールの1回目、2回目まで）に面談し、真面目にゼミに参加する意志が確認できた人。 ③ 大学行事等で、他のゼミ生と一緒に行動することも多いので、皆と仲良くできること。 ④ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、学則は遵守すること。
テキスト	授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆の意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業の中で随時、紹介していきます。
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない場合は、単位を認定できない場合があります。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜日（13時～16時）※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	全員卒業、全員就職に向けて、皆で頑張っていきましょう！また、「学生時代の友人は生涯の友人である」という言葉もあります。悔いのないよう、学修や就活に励むのと同時に、皆で素晴らしい思い出をつくっていきましょう。
----------------------	---

授業計画			
第1回	文化を学ぶということ	第17回	卒業試験対策①
第2回	様々な世界遺産を知ろう	第18回	テーマ学修について②
第3回	キャリア・プランニングについて	第19回	文学を楽しむためには
第4回	話す技術・敬語・マナーを磨こう	第20回	小説を読む技法
第5回	筆記試験対策について	第21回	卒業試験対策②
第6回	面接試験対策について	第22回	恋愛小説を読む
第7回	グループ・ディスカッション対策について	第23回	怪奇小説を読む
第8回	ビジネスメール・ビジネス文書について	第24回	卒業試験対策③
第9回	世界遺産と日本の歴史	第25回	テーマ学修について③
第10回	世界遺産と日本の文化	第26回	プレゼンテーション能力を高めるには
第11回	日本の文化と四季	第27回	論文の読解のために②
第12回	日本の文化と遊び	第28回	論述のポイントとは
第13回	テーマ学修について①	第29回	テーマ学修について④
第14回	論文の読解のために①	第30回	プレゼンテーションの実践
第15回	レポート・論文の書き方	第31回	社会人基礎力を高めるために
第16回	定期試験	第32回	定期試験



ゼミナール名	ゼミナールⅢ（国際文化論）		
ゼミ担当者名	半田 幸子		
科目分類	専門科目群		
開講年次	4年次	開講期間	通年
開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	国際文化論の射程範囲に収まるテーマについて問いを立て、テキスト分析を行い、論理的に結論を導き出し、それら一連の流れを卒業論文としてまとめ上げる。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化論で扱われるテーマや理論を理解し、受講者各自の興味・関心に基づいて問題と仮説を立て、問題にかかるテキストを客観的に分析し、分析結果を論理的に整理して人前で発表し、さらに論理的に文章化することができる。 2. 他のゼミ生と議論することができる。
ゼミの概要	<p>文献講読を通して、国際文化論の成り立ちや射程範囲を把握し、研究の手がかりとなる文化理論や社会理論を学びます。国際文化論は学際的な学問であり、射程範囲は大変幅広く、対象も方法も多様です。研究の対象は、芸術、食、衣服、制度、宗教、思想など多岐にわたっており、各自の興味・関心に基づいてテーマの選択が可能です（但し、教員と要相談）。</p> <p>前期は、文献講読を通して文化研究の基礎を学び、同時に、批判的読解力、要約力、発表力、理解力、論理的思考力を養います。並行して前期をかけて自分なりのテーマを考え、前期の終わり頃までに暫定的なテーマを設定してもらいます。テーマの設定にあたっては、教員と相談しながら行います。後期には、設定したテーマに関してゼミ論文を作成し、適宜、研究の進捗状況を発表してもらいます。前期はレポートを、後期はゼミ論文を提出してもらいます。</p> <p>ゼミナールⅡで当ゼミ受講者は、継続してテーマに取り組むことが中心となります。ゼミナールⅢからの当ゼミ受講者は、それぞれの関心に基づき、かつ一年でまとめられるテーマを設定し、各自で作業を行ってもらうことが中心となります。ゼミナール時間では共通となる文献を購読することで、文化研究への理解を深め、各自の研究や論文執筆の参考としてもらいます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・文献講読に関しては、担当を与えられた場合には、担当箇所を読んで、要点をまとめ、レジュメを作成する。（週1.5時間～3時間程度） ・担当ではない場合にも、事前に読んでおき、不明点や疑問点を明確にする。（週1.5時間程度） ・自分なりのテーマを考える。（週1時間程度）
履修条件	<p>以下の1. は必須条件とし、2. および3. のいずれかに当てはまることを履修条件とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に学ぶ意欲があること。 2. 「国際的なこと」や「文化的なこと」に興味があること。 3. 文化研究または人文系の研究や学問に関心があること。
テキスト	初回の授業で提示します。
参考文献・資料	<p>平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。</p> <p>遠藤秀樹『現代文化論』ミネルヴァ書房、2011年。他、ゼミナールの中で、適宜、紹介します。</p>
成績評価の方法	<p>【ゼミへの参加態度（25%）、発表（25%）、レポート・ゼミ論文（50%）】</p> <p>上記評価項目をもとにして総合的に判断します。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日・水曜日 15:00～</p> <p>※これ以外の時間・曜日は、事前に予約をとってください。</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)


学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<p>本ゼミの内容に関心のある学生にとっては、本ゼミは、研究課題に取り組むことで、知識だけでなく論理的思考力と文章力を鍛える場となることでしょう。時間と労力をかけて真剣に取り組む、一年間で卒業論文を完成することができれば、大きな達成感を得ることができ、卒業前に大きな自信につながることでしょう。ここで鍛えた力が、就職活動や、その後の社会人としての基礎体力となるでしょう。大学生活最後の一年間も初心を忘れず、あらゆることに好奇心旺盛に、一つひとつに懸命に取り組みましょう。分からないことがあれば、遠慮せずに聞いてください。</p>
----------------------	--

授業計画 (以下の計画は、授業の進捗状況および受講者の人数や学習状況によっては変更することがあります。)			
第1回	お試し ① (ゼミ概要説明、教科書説明、自己紹介)	第17回	後期ガイダンス (後期役割分担、計画立案等)
第2回	お試し ② (ゼミ概要説明、教科書説明、自己紹介)	第18回	研究報告 (3)
第3回	文献講読の進め方 (レジュメの作り方等) 文献講読 ①教員による紹介	第19回	文献講読 ⑫
第4回	文献講読 ②	第20回	文献講読 ⑬
第5回	文献講読 ③	第21回	文献講読 ⑭
第6回	文献講読 ④	第22回	研究報告 (4)
第7回	文献講読 ⑤	第23回	文献講読 ⑮
第8回	文献講読 ⑥	第24回	文献講読 ⑯
第9回	研究報告 (1)	第25回	文献講読 ⑰
第10回	文献講読 ⑦	第26回	卒業論文の執筆：個別指導、個別面談
第11回	文献講読 ⑧	第27回	研究報告 (5)
第12回	文献講読 ⑨	第28回	卒業論文発表 ① (分析、考察、結論)
第13回	文献講読 ⑩「	第29回	卒業論文発表 ② (分析、考察、結論)
第14回	文献講読 ⑪	第30回	卒業論文発表 ③ (分析、考察、結論)
第15回	研究報告 (2)	第31回	総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（日本経済のマクロ分析）		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	マクロ経済学的視点から、日本経済の問題点を特定しその解決策を探る。4年次の前半は、日本政府の財政赤字を取り上げる。最終年次なので後半は卒論指導を行う。
ゼミの到達目標	日本経済の最重要な問題点である「日本政府の財政赤字」の実態を明確に理解したうえで、その解決方法を探します。
ゼミの概要	4年次ということで、最重要問題の「日本政府の財政赤字」に真正面から取り組みます。この問題についての理解を深めるとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。他人の意見もよく聞いてお互いに討論して下さい。この1年で、卒論を作成して下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。
履修条件	日本経済新聞を購読すること（ゼミの最初に、輪番で経済記事の過去1週間のトピックスを報告してもらいます）
テキスト	「日本の財政はどうなっているのか」湯本雅氏 岩波書店（予定）
参考文献・資料	「財政危機の深層」小黒一正 NHK出版社 日本経済と財政危機の本質シリーズ8「このままでは、国家財政の破綻は確実！」深澤泰郎、 「日本の財政関係資料（令和3年10月）」財務省、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	未定
成績評価基準	輪読と意見発表と討論（25%）、まとめのレポート（25%）、卒論（50%） 卒業論文の作成が本ゼミナール修了の必須条件です。卒業論文の完成は1月中旬とします。それまでに、教員の指導を受けて、了解を得て下さい。
学生へのメッセージ	日本の将来は明るくありません。その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。また卒論は日本経済に関するテーマであれば、自由としたいと思います。教員と相談してください。

授業計画			
第1回	ガイダンス 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	卒論作成指導(ただし、本年は3年次の社会保障と金融政策の問題点を取り上げる可能性あり)
第2回	財政総論	第18回	卒論作成指導(同)
第3回	中央政府の財政活動	第19回	卒業論文進捗状況確認
第4回	地方政府の財政活動	第20回	卒業論文進捗状況確認
第5回	租税に関する諸問題(1)	第21回	卒論作成指導(同)
第6回	租税に関する諸問題(2)	第22回	卒論作成指導(同)
第7回	社会保障制度に関する諸問題(1)	第23回	卒論作成指導(同)
第8回	社会保障制度に関する諸問題(2)	第24回	卒論作成指導(同)
第9回	地方財政に関する諸問題	第25回	卒論作成指導(同)
第10回	公債に関する諸問題	第26回	卒論作成指導
第11回	財政ポジションの健全化を目指して	第27回	卒論作成指導
第12回	中長期の経済財政に関する試算(令和2年1月17日)の検証	第28回	卒論作成指導
第13回	第1回~第12回までのまとめとレポート作成	第29回	卒論発表
第14回	レポート作成	第30回	卒論発表
第15回	3年次及び上記も踏まえた卒論テーマ予告	第31回	卒論発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (労働経済・社会保障)		
	ゼミ担当者名	藤本 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	地域の労働経済・社会保障についての考察と卒業試験、卒業論文指導、就職活動支援。
ゼミの到達目標	地域経済に関する理解を深め、就職活動や卒業試験対策に活かし、卒業論文作成を行う。
ゼミの概要	卒業試験対策としては、経済学の基礎・応用・現代の三分野について復習する。卒業論文指導は各自のテーマに沿って話し合いを行い、円滑な作成をサポートする。
授業時間外の学習	図書館などを使って、新聞をよく読むこと。これをベースに、ゼミの時間で意見を交わし合い、理解がより深められるよう努める。
履修条件	意欲的に取り組む気持ちが必要である。ゼミナールのメンバー同士での話し合いを積極的に行って、その経験を積み重ねていくことが大切である。
テキスト	特に定めないが、新聞記事やプリントを活用することがある。
参考文献・資料	『日経TEST』各年版 『詳説政治・経済(改訂版)』山川出版社 公務員Vテキスト『社会政策』第12版
成績評価の方法	出席状況、ゼミ活動への積極的参加姿勢、提出レポート、卒業論文等から評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の12時～13時 及び 木曜日の17時～18時
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	出席を重視する。遅刻しないよう努めて欲しい。積極的な活動が出来るよう、お互いに刺激し合い、高め合っていこう。

授業計画			
第1回	ゼミナール活動方針について。説明と話し合い。	第17回	卒業試験対策、卒業論文指導
第2回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第18回	卒業試験対策、卒業論文指導
第3回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第19回	卒業試験対策、卒業論文指導
第4回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第20回	卒業試験対策、卒業論文指導
第5回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第21回	卒業試験対策、卒業論文指導
第6回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第22回	卒業試験対策、卒業論文指導
第7回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第23回	ゼミナール大会・予選
第8回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第24回	ゼミナール大会・決勝
第9回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第25回	卒業試験対策、卒業論文指導
第10回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第26回	卒業試験対策、卒業論文指導
第11回	卒業試験対策、卒業論文指導、大学祭準備	第27回	卒業論文指導
第12回	卒業試験対策、卒業論文指導、大学祭準備	第28回	卒業論文指導
第13回	卒業試験対策、卒業論文指導、大学祭準備	第29回	卒業論文指導
第14回	卒業試験対策、卒業論文指導	第30回	卒業論文指導
第15回	卒業試験対策、卒業論文指導	第31回	卒業論文指導、今年度を振り返って
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (環境学)		
	ゼミ担当者名	村中 孝司 (むらなか たかし)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境、農林漁業、食料・食文化に関する卒業論文を作成する。 2. 自分自身が大学生4年間でやり遂げた成果を1つ作る。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食料と農林漁業に関する問題、自然風景の評価手法、生物多様性に関する問題など、多様な視点から地域課題に関するテーマを調査し、環境や地域に対する理解を深めます。 2. メンバーの発表をよく聴き、質問や意見を述べる力を身につけます。 3. 学術書をよく読み、文章を良く理解し、自分で表現する力を身につけます。 4. 卒業論文を完成させ、自分自身の学修の成果をつくり上げます。
ゼミの概要	<p>環境と社会の関係に注目し、持続可能な社会の構築を科学的に考えることを目標にしています。自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、フィールドワークを併せて実施します。それによって、自然界や社会に対する皆さんの観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。</p> <p>ゼミの内容は、①輪読、②研究(卒業論文)の2点です。</p> <p>① 輪読：学術に関する基本的知識と考え方を身につける勉強を行います。柴山盛生・遠山紘司著『問題解決の進め方』を予定しています。この教科書からは、卒業論文の執筆の方法だけでなく、社会に出たときに役立つものの見方、考え方を学ぶことができます。</p> <p>② 研究：各人(または2人以上のチーム)の興味関心に応じた卒業論文を執筆し、1月までに完成させます。卒業論文は、大学4年間の集大成です。</p>
授業時間外の学習	<p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、論理的な説明の方法を学んでください。ゼミナール内外の仲間たちとも、よく議論してください。ただ漠然と日常を過ごすのではなく、どこかに興味深い問題が転がっていないか、探索する眼を養ってください。</p>
履修条件	<p>次の①～③の条件を全て満たす者としてします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 卒業論文の執筆に専念できる者。 ② 環境学ゼミナールⅡを履修済みの者。または、教員と相談の上、ゼミ所属の承諾を得た者。 ③ 年間を通してアルバイトしない者。アルバイトが必要な場合は、理由を付けて教員に事前に申し出た上で許可を得ること。
テキスト	秋光淳生・柴山盛生『問題解決の進め方 新訂』(放送大学教材)(予定)
参考文献・資料	ゼミナール中に紹介します。
成績評価の方法	<p>卒業論文・論文指導・研究発表(50%)、輪読・試験(50%)</p> <p>卒業論文の執筆が修了の必須条件です。完成は1月中旬とします。それまでに、教員の添削指導を受け、教員による「完成宣言」を1月6日までに取得してください。したがって、卒業論文の初稿を遅くとも10月上旬に提出する必要があります。なお、添削の平均回数は7回、1回の添削と手直しには少なくとも10日間必要です。</p> <p>出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	火曜日 14:40～16:10、水曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。ゼミナール研修会(夏期)は、皆さんの希望を聴き、宿泊で県内外の観光地へ行きます。このゼミか</p>

らは、これまで、JA 全農、日本郵便、秋田銀行、秋田県信用組合、秋田商工会連合会、生協、秋田県警、EiSU、TDK、山二、ユー・エス・イー、日本テクニカルシステム、伊徳、コメリ、マックスバリュ東北、ツルハ、薬王堂、サンコーホーム、秋田土建、ダイキン、ヨコウン、奥羽運送、プライムアシスタンス、秋田ダイハツ、など、多彩な職種・業種への内定者が出ました。

授業計画（環境学ゼミナールⅢ）			
第1回	ガイダンス 体験入室（前半）	第17回	研究⑦ 論文紹介① 卒業論文の進捗状況確認
第2回	ガイダンス 体験入室（後半）	第18回	研究⑧ 論文紹介② 卒業論文の進捗状況確認
第3回	研究① 卒業論文テーマの準備	第19回	研究⑨ 論文紹介③ 卒業論文の進捗状況確認
第4回	研究② 第1次 卒業論文のテーマ予告 進捗状況の報告	第20回	研究⑩ 第3次 卒業論文のテーマ予告 進捗状況の報告
第5回	輪読① 「第1章 問題とは」	第21回	輪読⑨ 「第9章 発想を広げる」
第6回	輪読② 「第2章 問題を見つける」	第22回	輪読⑩ 「第10章 組織での進め方(1)」
第7回	研究③ 卒業論文研究指導	第23回	輪読⑪ 「第11章 組織での進め方(2)」
第8回	輪読③ 「第3章 目標を設定する」	第24回	輪読⑫ 「第12章 組織での進め方(3)」
第9回	輪読④ 「第4章 情報を収集して整理する」	第25回	研究⑪ 卒業論文指導
第10回	研究④ 第2次 卒業論文のテーマ予告 進捗状況の報告	第26回	輪読⑬ 「第13章 集団の意思決定とコミュニケーション」
第11回	輪読⑤ 「第5章 数値情報を扱う」	第27回	輪読⑭ 「第14章 解決策を実行する」
第12回	研究⑤ 専門書紹介①（グループA）	第28回	輪読⑮ 「第15章 評価する」
第13回	研究⑥ 専門書紹介②（グループB）	第29回	研究⑫ 卒業論文発表①（グループA）
第14回	輪読⑥ 「第6章 図解化して見る」	第30回	研究⑬ 卒業論文発表②（グループB）
第15回	輪読⑦ 「第7章 分析的に考える」	第31回	研究⑭ 卒業論文発表③（予備日）
第16回	輪読⑧ 「第8章 学習記録と振り返り」	第32回	定期試験